

心臓の中を超音波で診ると・・・

山へむかって「ヤッホー」、そうするとしばらくして「ヤッホー」と返ってきます。この音の性質を利用してからだの中を診るのが超音波検査です。「エコー検査」とも呼ばれ、心臓・腹部・乳房・甲状腺などあらゆる部分の状態を知ることができます。



心臓は、おぎゃーっと生まれる前、すなわち胎内に生命が宿り心臓の原型ができた時点から鼓動がスタートします。以来、ずーっと動き続け、実に働きものです。でもその心臓も、人生の中には色々な出会いや障害にぶちあたります。時にサボる（不整脈）、風邪をひく（心筋炎、心膜炎）、栄養や酸素が足りなくなる（狭心症・心筋梗塞）、血液の循環を制御している弁の異常（弁膜症）などなど、心臓は結構ナイーブなものです。生まれた時から壁の一部に「穴」が開いていたりあるいは血管が狭かったり（先天性心疾患）もあります。また年をとると、ポンプ機能の低下（心不全）を生じることもあります。

心臓の超音波は、①心臓の大きさとそれぞれの部屋のバランス、②弁の動き、③心臓全体の動き、④血液の流れ、⑤異常構造物などを観察し総合的に心臓の異常を発見して病気の実態を把握することができる検査です。

音を用いているので、被曝の心配は全くなく胎児、妊婦さんでも安心して検査を受けていただくことができます。時間は約30分で終了します。

